

魚病対策事業

後藤悦郎

隠岐島を除く県内の増養殖漁業の健全な育成をはかるため、飼育技術、防疫対策、水産用医薬品の適正使用等の指導を行なった。

また、魚病発生時にはその診断、同定を行ない、疾病の治療、処置対策、飼育技術の改善等の指導を行なった。

1. 防疫対策定期パトロール

表1に示す様に各増養殖経営体について巡回し、飼育管理指導、魚病発生状況調査等行なった。

表1 防疫対策定期パトロール

年月日	実施地域	対象魚種	年月日	実施地域	対象魚種	年月日	実施地域	対象魚種
61.4.8	益田市	アユ	61.9.10	益田市	ヤマメ	62.1.22	江津市	アユ
5.11	大田市	ニジマス etc	9.18	美保関町	マダイ etc	1.26	松江市	ワカサギ
5.19	湖陵町	ドジョウ	9.19	島根町	ヒラメ etc	1.28	松江市	ワカサギ
6.18	三刀屋町	アユ	10.22	安来市	ドジョウ	2.18	三刀屋町	アユ
7.11	益田市	アワビ	10.29	益田市	モクスガニ	3.6	安来市	ドジョウ
7.23	湖陵町	ドジョウ	11.20	益田市	シロザケ etc	3.9	頓原町	ヤマメ
8.9	安来市	ドジョウ	11.21	江津市	アユ	3.16	益田市	シロザケ etc
8.25	邑智町	ヤマメ	12.2	出雲市	シロザケ			
9.9	浜田市	ヒラメ	62.1.21	湖陵町	ドジョウ			

2. 魚病発生時の緊急対策

表2に示す様に各増養殖経営体に発生した魚病の同定、対策指導等を行なった。

表2 魚病発生時の緊急対策

年月日	実施地域	対象魚種	疾病の原因	指導内容
61.5.1	益田市	アユ	細菌性鯉病	投薬指示 塩水浴指示 対策指導 塩水浴指示 薬浴指示 投薬指示 分槽指示
5.22	三刀屋町	アユ	ビブリオ病	
6.5	瑞穂町	ヤマメ	トリコディナ症	
6.18	大田市	ニジマス	IHN症	
7.3	三刀屋町	ホンモロコ	キロドネラ症	
7.10	益田市	色鯉	水カビ病	
9.9	大田市	ヒラメ	エドワジェラ症	
9.9	益田市	黒鯉	カラムナリス病とミキソバラス症の合併	
9.16	安来市	ドジョウ	高密度飼育による環境悪化	

年月日	実施地域	対象魚種	疾病の原因	指導内容
61.10.23	松江市	フナ etc	不明	消毒指示 投餌量減量指示 投薬指示
62.1.22	益田市	シロザケ etc	高水温のため環境悪化	
2.3	益田市	アユ	輸送による衰弱斃死	
2.7	島根町	オニテナガエビ	不明	
2.9	三刀屋町	アユ	細菌性鰓病	
2.19	益田市	アユ	細菌性鰓病	
2.27	浜田市	ヒラメ	トリコディナ症とビブリオ病の合併	
2.27	益田市	アユ	杯頭条虫症	

3. 魚病発生防止対策

ア. 養殖場の定期観測

8月にヤマメ、ニジマス養殖場の水質調査を行なった。また、12月にはオニテナガエビ養殖場の水質調査を行なった。(表3)

表3 養殖場の定期観測

実施期間	実施場所(カ所数)	測定項目
61.8.20	瑞穂町(3), 大田市(1)	水温, pH, SS, DO, COD, PO ₄ -P, NH ₄ -Nについて検査
8.21	金城町(2)	同上
8.22	吉田村(1), 頓原町(1), 大東町(1)	同上
12.18	島根町(1)	pH, DO, Fe, COD, NH ₄ -Nについて検査

イ. 魚病情報の収集, 伝達

魚病発生時の緊急対策における病魚の収集, その結果等の伝達を行なった。その他魚病に対する一般的な相談や医薬品の使用に対する相談を行なった。表4にその結果を記した。

表4 魚病情報の収集, 伝達

	魚病情報の種類	件数	情報源		魚病情報の種類	件数	情報源
(収集)	魚病相談(照会)	17	養殖漁業者	(伝達)	魚病診断結果(回答)	16	養殖漁業者
	“(検査依頼)	20	“		治療予防対策(回答)	24	“
	医薬品使用(照会)	3	“				

4. 医薬品適正使用対策

表5に示した様に巡回指導をした時に医薬品の適正使用に関する知識の普及を行なった。8月30日にはヤマメ、ニジマス養殖業者を対象にその説明会を開催するとともに魚病講習会も行ない、マス類の全国、島根県養殖状況、魚病発生状況、発生時の処置等に関する知識の普及を行なった。(表5)

表5 医薬品適正使用対策

年月日	実施場所	対象人数	実 施 内 容
61. 5. 30	湖 陵 町	2	水産用医薬品の適正な使用方法について指導
8. 30	三刀屋町	30	上記の他ヤマメ、ニジマスの魚病講習も行なった
10. 14	頓 原 町	3	水産用医薬品の適正な使用方法について指導
11. 7	湖 陵 町	3	〃
12. 12	江 津 市	4	〃
12. 23	益 田 市	6	〃
62. 1. 23	石 見 町	4	〃

5. 主要魚種の魚病発生状況等

○コ イ

マス類に次いで魚病相談件数が多かったが、主体は一般的によく見られる水カビ病、穴あき病であった。ただ益田市で難病とされるミキノボラス症が稚魚に発生し、カラムナリス病も併発して5%の被害率があったので今後注意を要する。

○ア ユ

対象魚は河川放流用で体重5gまでのもので一番出現頻度の高い魚病は細菌性鰓病であった。その他ビブリオ病、輸送による衰弱、杯頭条虫症が一件ずつあった。杯頭条虫症のアユは琵琶湖産のもので斃死率が高かったが斃死の原因はそれ以外のものであろうと思われる。全体的にビブリオ病の被害は少なく高歩留りで河川に放流された。

○マス類

例年魚病相談件数が最も多いが主体は一般的によく見られる病気であった。ただ、数年間は発生が見られなかったIHN症が2経営体に発生、ニジマスとヤマメの稚魚数万尾が死亡した。うち1経営体は数年前に発生したため防疫処置を施していたが完全駆除されないためウィルスが残留しており不注意で稚魚に感染したと思われる。

ヤマメは養殖希望も含めて相談件数が最も多いが、無理のない養殖方法を指導し病気の発生、まん延を防止する必要がある。そのため8月30日には始めて三刀屋内水面分場にて魚病講習会を開催し魚病に関する知識の普及、情報交換をはかった。

○ドジョウ

昨年度に1経営体が養殖を開始して以来、経営体や養殖希望者が増加の傾向にある。稚魚の時期に収容密度が多く環境の悪化を招いて斃死した例が1件あった。ドジョウはほとんど止水で飼育するために飼育条件が悪いと環境の悪化が起こりやすい。また観察しにくいので魚の状態の良否がつかみにくいので指導を一層強化することにより疾病の発生を軽減したい。

○ヒラメ

陸上養殖のため換水率が悪く疾病が発生しやすい。今年はエドワジェラ症が一件あった。